

特別講演 1

「地域包括医療と介護における漢方」

筑波大学附属病院 臨床教授

野木病院 副院長

加藤 士郎 先生

これからの高齢者医療と介護は、地域包括ケアシステムによって運営されていくが、そのためには地域の、かかりつけ医、中核病院、特定機能病院のバランスが重要になる。また介護施設の数と種類のバランスも重要になる。

総合的な診療を必要とする高齢者に対して漢方薬は多様な使用が可能である。ことに通常の西洋医学的な治療のみではカバーし得ない各種疾患の臨床症状を改善し得ることができる。これによって医療機関においては通院の回数を減らしたり、退院を早めたりすることが可能となる。介護施設においては、自宅退所が可能になったりする。これによって高齢者の QOL を改善するとともに、高齢者の介護を担う人たちの負担も軽減し得る。その結果、医療費や介護費の増加を抑制する可能性もある。

今回、漢方処方の効果的運用について症例を中心に紹介していきます。